



平成28年熊本地震により被災された皆さま方に衷心よりお見舞い申し上げます。

浄土真宗本願寺派たすけあい運動募金 「平成28年熊本地震災害義援金」にご協力をお願いします。

想定外 ～あわてる島見会長～

140年の時をひなぐお念仏

南隅組眞光寺 平川明憲

それは、突然の出来事、まさに想定外でした。

九月五日、さつま開教一四〇周年記念法要を無事に終え、夕刻の雅楽コンサートを終えた時でした。拍手に包まれる満堂の本堂最前列から、「アンコール、アンコール」との声が。その声は間もなく本堂全体に広がっていききました。

無事に法要、コンサートを終えた安堵感に満ちていた私には、まさに想定外。周りを見渡すと、あわてる島見会長に、戸惑う会員。どうしていいか、どうなることか。しかし、不思議と不安はなく、むしろ嬉しさが胸にあふれることでした。

島見会長の指示のもと、アンコールにも無事応え出番を終えることができました。常日頃から、「雅楽には大き

な魅力がある。その魅力を多くの人に伝える役割を私たちは担っているのです。」と語っておられた、島見会長。想定外にあわてながらも、誇らし気な姿がそこにはありました。

今、私たちは誰からもとがめられることなく、お念仏を称えることができる時代にいのちをいただいております。しかし、ついこの前までお念仏を称えると罰せられる時代があったのです。

現在、その出来事は、歴史として、資料、遺産として学ぶことができます。しかし、当時の方々の真の苦しみは……想像をはるかに超えることでした。

さつま開教一四〇年という節目に出会い、多くの人々と満堂の本堂でお勤めできましたことは、私自身、大きな喜

びでありました。

つい一年前、病との闘病の中、何度も絶望の淵を彷徨いました。不安、苦しみ、悔しさ、様々な感情があふれる私の心を癒やし、諭してくれたのは、たとえこの身が朽ち果てようとも、必ず救うと誓われた、お念仏の教えでした。ある意味、開き直りもあったとは思いますが、「このいのち、お任せするしかほかになく、すぎるしかない日々が少な



らずありました。
一四〇年前、さつま開教を成し遂げた先人の方々は、大きな喜びに包まれ、存分にお念仏申したことでしよう。

恥ずかしながら私自身、今年の法要はただ座っているだけで、何のお手伝いもできませんでしたが、今までにない有り難いときを過ごさせてくださいました。これも病のお陰かと今となっては思えることです。

一四〇年の時をつなぎ多く



の方々、護り伝えて下さった“お念仏”の教えに包まれながら、私もまたどなたかに見える役割を今後とも担っていきたく感じたことでした。

先のことは、だれにもわからないことではありませんが、人の欲望は尽きることないので、一五〇周年の法要に向け、歩みをすすめていきたい

と思うことでした。
有り難いご縁にお誘いいただき、ありがとうございます。

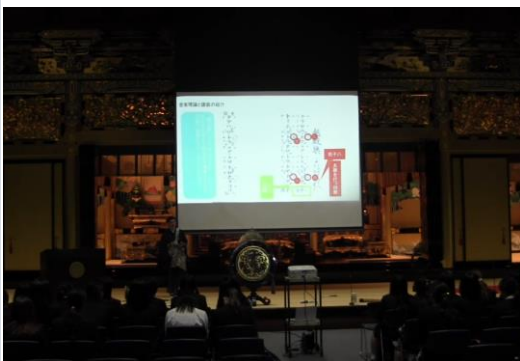
鹿児島女子短期大学生に雅楽講義

雅友会副会長 大八木宗司

雅友会では広く雅楽を知ってもらい、お寺をより身近に感じてもらいたい、という願いのもと、これまで学校などの教育機関に出張して、雅楽の授業を行なって来ました。

その一環として、去る11月19日に鹿児島別院本堂に鹿児島女子短期大学 児童教育学科の学生30名程の皆さんをお迎えして、雅楽の講義を行いました。

ほとんどの学生が、生で初めて雅楽を聞くということもあり興味津々で、その積極的な学習意欲のおかげさまで、わたしたちにとっても学びの多いご縁となりました。



投稿コーナー

「平調 越天楽残楽三返」

揖宿組光雲寺 佐藤一洋

“秋は平調”の言葉に誘われ、雅楽公演会に行きました。

(※春は双調、夏は黄鐘調、冬は盤渉調という季節感の表現を私は初めて目にしました。)

宗像ユリックスイベントホールにて、多

忠輝氏 (宮内庁式部職楽部・東京楽所代表)

による雅楽器紹介の後、東儀雅季氏の鞆鼓による管弦の演奏が始まりました。

平調音取に続き、越天楽残楽三返です。有名な越天楽を3回繰り返し演奏するのです。

チラロで始まる全員での合奏(総吹)の1回

ボウズミーツフェス

2016

今年で4回目となるボウズミーツフェス。今年も、昨年

同様本堂内に於いて、来場者
に実際に楽器に触れていただき、音を鳴らしていただく「雅楽体験」をさせていただきました。

目に続き、2回目に入るころ、音止め、
って打ち物が止み、絃類と各管主管のみとな
り(残吹)、やがて笙も止み、3回目に入ると
笛が止み、主旋律の箏が時々思い出したよ
うに演奏と休止を繰り返しつつ、
琵琶との即興演奏のように絡みながら、残楽を
楽しみ、最後に樂箏が止手を奏するのです。
つまり演奏が進むにつれて楽器が順々に少
なくなっていく、最後は箏・笙と絃類だけ
の演奏になるのです。

絃類の奏法を活かし賞美するために考
えられたと思われる(雅楽辞典)と独特の曲
演奏に酔いしれたひと時でした。

追、会場にて高岡君に会い、変わらず雅
楽好きだなと感心することでした。「佐藤さん
も好きですね」という声が出そうなので言
訳をしますが、宗像に次男がいるので息子
会いたさに、ついでに演奏会に行ったとい
うわけですね。

「初めて見ました」
「大きい音が鳴るんですね」
「音、鳴らないんですけど…」
「なにこれ、疲れる」
といった参加者の声。その反



応、待ってました!
「この雅楽体験が目当てで来
ました」
という方もいらつしやり、と
てもありがたくうれしかった
です。
屋外ステージのトリも務め
させていただきました。今年
はドラム、ベース、キーボー
ドとのコラボもあり、大変盛
り上がりしました。
「雅楽を聞くために今日は来
ました」
「やっとなんて! 6時間、待ちま
した」
なんてありがたいことなんで

しょう。
来年、このようなフェスがあるかはわかりませんが、もっともつと研鑽し、このような場でも、もちろん普段の御法要もしつかりとした演奏ができるよう努力を続けたいと思います。

朋友紀行 4

このコーナーでは、雅友会員の所属寺のご紹介いたします。第四回目は、雅友会龍笛管頭、南隅組浄福寺の藤園智信氏です。

花岡山浄福寺は、明治18年11月18日、大阪茨木市浄福



寺より藤園隆観法師を住職として迎え開基、現在五代目になります。

浄福寺のある鹿屋市花岡地区は、「だきしょ（落花生）」や「タカンツメ（唐辛子）」が特産として有名です。特に唐辛子はかつて「花岡胡椒（こしょう）」と呼ばれ、明治から昭和初期にかけては海外へも輸出されており、海外バイヤーからは味よし香りよしとその評価は高く、「花岡の胡椒が世界の相場を作る」とまで言われるほど、Hanakaの名は世界に知れ渡っていました。浄福寺には、小さな小さな阿弥陀如来像があります。こ



の仏様は、花岡島津家第六代、島津久誠の妻時子が、日置島津家から花岡に嫁ぐとき、そとと母親から渡され、懐に忍ばせて持ってきた仏様であるといわれています。念仏を禁止する立場にある島津家の中にも念仏者の姿があったことを示す貴重な御本尊であり、「朝夕礼拝を怠らざりし」時子姫のお姿が偲ばれます。



活動報告（平成28年）

- 3月 東北にてボランティア演奏
- 5月 WALK INN FES（桜島）出演
- 北隅組照明寺結婚式
- 6月 沖繩別院落成慶讃法要
- 7月 狂言の会にて演奏
- 9月 さつま開教140周年記念法要
- 10月 ボウズミーツフェス出演
- 11月 鹿児島女子短期大学 雅楽特別講義
- 他、別院各法要に出勤

☆雅友会へのお問い合わせ

鹿児島教区教務所内雅友会事務局

099-222-0051

（担当 片岡）

雅友会ホームページ

（鹿児島別院ホームページ内）

<http://www.hongwanji->

[kagoshima.or.jp/gayukai/](http://www.hongwanji-kagoshima.or.jp/gayukai/)